

消防訓練 実施の手引き



お問い合わせは

消防局予防課 TEL 280-2065 中央消防署 TEL 280-5041
駅西消防署 TEL 280-6094 金石消防署 TEL 280-7037

金沢市消防局ホームページ



金沢市消防局

検索

金沢市消防局

目 次

- 1 目的 1
- 2 役割の明確化 1
- 3 訓練の進め方 1
- 4 その他 2
- 資料1 防火管理上の留意事項 3～6
- 資料2 火災発生時の実施項目 7
- 消防訓練実施記録書（様式第1号） 8～10
- 隊員行動表（様式第2号） 11～12

1 目的

関係者が主体となり、火災発生から消防隊到着までの一連の総合的な訓練を実践し、その結果を以後の訓練に反映することで、防火対象物の実態に応じた防火管理体制の構築を図ることが消防訓練の目的です。



Point

万一火災が発生した場合のイメージを、防火対象物の関係者全員が共有した上で訓練を実施し、設置されている設備などの有効性について一人一人が再確認し、防火意識を向上させることが重要です。



2 役割の明確化

- (1) 管理権原者又は防火管理者等
訓練責任者として訓練を進行し、実施結果を記録するとともに改善事項を抽出します。
- (2) 従業員等
活動隊員として、自らの役割を理解し、適切な対応行動について習熟します。

3 訓練の進め方

- (1) ウォーミングアップ ～ 頭と体の準備運動 ～
資料1を用いて、各施設・用途の特徴を踏まえた対応行動と活動時の留意点を確認しましょう。また、安全管理のため、準備体操を行いましょ。



Point

全員が、火災発生時の留意点を共有しましょう。

- (2) 訓練想定との付与 ～ 実態に応じた訓練想定が訓練充実の鍵 ～
次の点に留意し、様式第1号に必要事項を記載しましょう。
ア 利用者にとって特に人命危険が高い時間帯（繁忙期や夜間）とする。
イ 個室や火気使用設備がある厨房等、出火の可能性が高い場所とする。
ウ 各隊員の活動が毎回同じにならないよう、その都度、想定を工夫する。



Point

想定を踏まえ、火災の進展と必要な対応行動について時系列でイメージしましょう。

- (3) 対応行動に関するブリーフィング ～ 綿密な連携体制の確保のための打ち合わせ ～
次の要領で、各隊員の役割を明確にし、連携体制を確保しましょう。
ア 各隊員の役割を割り振り、隊員の行動計画を様式第2号に青線で記載する。
イ 資料2を参考に、各隊員は自身の活動内容を確認する。
ウ 各隊員の連携について、改めて様式第2号を用いて打ち合わせる。



Point

火災時の隊員間の連絡方法等について、事前に確認しておきましょう。

- (4) 訓練の実施
訓練開始の合図として、自動火災報知設備の感知器を実際に作動させる等、実火災を想定した訓練を実施しましょう。
ア 各隊員は、訓練開始の合図で行動を開始する。
イ 訓練責任者は、各隊員の対応行動や全体の活動について確認する。
ウ 様式第1号の裏面を活用して安全管理を徹底する。



Point

キーワードは「安全」「確実」「迅速」＋「連携」です。計画通りに活動が行えましたか？

- (5) 結果の記録と事後検討
各隊員の行動結果を様式第2号に赤線で記載します。訓練参加者で、事後検討会を開催し、結果を共有しましょう。
ア 良かった点（今後とも取り組むべき点）や改善すべき点について話し合う。
イ アの結果を様式第1号に記載し、以後の訓練に反映する。
ウ 実施結果（様式第1号・様式第2号）は、防火管理維持台帳に編冊し保管する。



Point

改善点が見つかる訓練（改善点を見つける意識）こそが次に繋がります。

4 その他

- (1) 訓練を実施する際は、消防訓練計画通知書等により事前に消防署へ通報して下さい。
- (2) 消防職員による訓練指導を希望される場合は、事前に管轄消防署までご連絡下さい。
- (3) 訓練の実施に際しては、本手引きによるほか、次の防火管理体制指導マニュアルを有効に活用して下さい。
ア 旅館・ホテル等における夜間の防火管理体制指導マニュアル
イ 社会福祉施設及び病院における夜間の防火管理体制指導マニュアル
ウ 物品販売店舗等における防火管理体制指導マニュアル

防火管理上の留意事項

1 施設ごとの特徴

各施設・用途の特徴を踏まえて、活動時における留意点について話し合い、認識を共有しましょう。

◆ ホテル・旅館等

(1) 事業形態

- ア 夜間は、従業員が極端に少なくなる。
- イ 多数の客室があり、個室化されている。

(2) 利用形態

- ア 飲酒をしていたり、就寝中である。
- イ 外国人が宿泊している場合がある。
- ウ 時間帯、曜日、季節等の条件により宿泊者の増減がある。



Point

- 各客室のドアをたたいて、火災である旨を知らせる。
- 宿泊者名簿により、宿泊者の人数を把握する。
- 階段室等の防火区画を形成し、被害拡大を防止する。

◆ 社会福祉施設及び病院

(1) 事業形態

- ア 夜間・休日は、従業員が極端に少なくなる。
- イ 多数の病室があり、個室化されている。

(2) 利用形態

- ア 自力避難困難な方が、入所・宿泊している場合がある。
- イ 時間帯、曜日等により利用者数の増減がある。
- ウ 患者や入所者以外に、見舞客等の利用がある。



Point

- 短時間に自力避難困難な多くの方を効率よく避難させなければならない。
- 出火区画外又は安全なバルコニーへ避難させ、順次、地上、屋上へ避難させる。
- 階段室等の防火区画を形成し、被害拡大を防止する。
- 近隣協力体制を構築しておく。

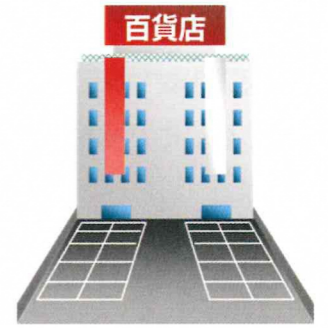
◆ 百貨店・マーケット等

(1) 事業形態

- ア 売り場やバックヤードには多種多様な商品等可燃物が大量に收容されている。
- イ 飲食店等の併設により、火気を使用する場所が多い。
- ウ 利用時間は、営業時間のみである。

(2) 利用形態

- ア エレベーター、エスカレーター等を使用するため店内における方向感覚や現在地の把握が薄れている。
- イ 利用者の多くは、買い物をしており荷物を持っている。
- ウ 外国人、自力避難困難者、乳幼児等が含まれている。
- エ 時間帯、曜日、バーゲンセールの有無等により利用者数の増減がある。



Point

- 出火階における迅速な防火区画を形成する。
- 売り場部分における避難経路を事前に設定する。
- 階段入口、通路角、エレベーター前等に誘導員を配置する。
- パニックを起こさないように適切な放送をする。

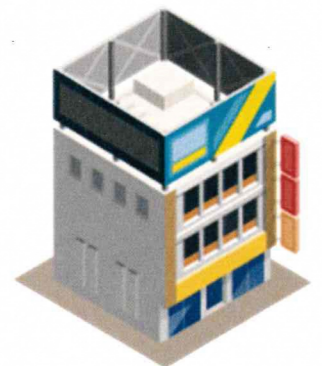
◆ 飲食店等を含む複合用途ビル

(1) 事業形態

- ア 構成するテナントは、飲食店のほか物品販売店、倉庫、事務所等と様々な用途である。
- イ テナントごとに管理権原が異なることが多く、テナント間の連絡が少なくなりがちである。
- ウ 飲食店を併設する場合、利用時間が夜間である場合が多く、深夜にまで及ぶものがある。

(2) 利用形態

- ア 構成される用途により利用者の年齢層が大きく異なる。
- イ 飲食店を併設する場合、利用者は飲酒している場合が多い。
- ウ 時間帯、曜日、イベントの有無等により利用者数の増減がある。



Point

- 各テナントのドアをたたいて、火災である旨を知らせる。
- 階段での避難を最優先とし、避難器具の使用は最終的な手段とする。
- 階段室等の防火区画を形成し、被害拡大を防止する。

2 火災の性状

建物火災の性状について理解し、適時適切な対応行動をとることが人命を守るために重要です。



(1) 火災の進展過程

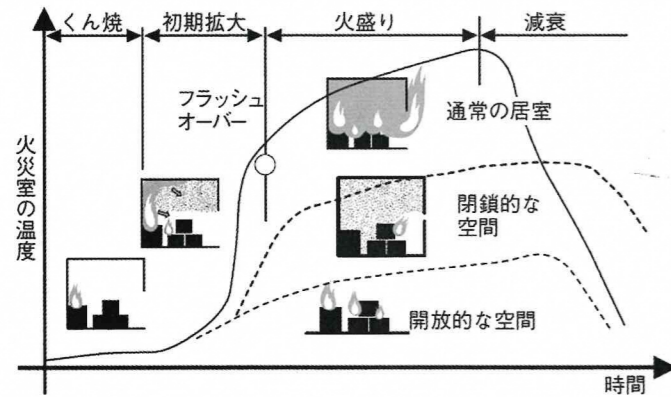


図. 区画火災の進展過程

(出典: 原田和典、建築火災のメカニズムと火災安全設計)

- くん焼** 小さな火種です。
- 初期拡大** 火種は成長して壁やカーテンなどに延焼します。
- 火盛り** 炎は窓を突き破り、天井を抜き、軒先や屋根から炎が立ち昇ります。
- 減衰** 火の勢いが衰え、鎮火に至ります。



Point

早期発見と初期消火により火災を最小限にとどめましょう。

(2) 煙の危険性



- ア 煙の拡散する速度は、急速です。
 - ※ 上方向…毎秒3～5m
 - 横方向…毎秒0.3～0.8m
 - 人間の歩行速度…毎秒1～1.5m
- イ 見通しが悪くなり方向感覚を失い、心理的パニックを起こします。
- ウ 有毒ガスを含んでいます。
- エ 煙は熱せられており、吸い込むと火傷を起こします。



Point

階段室や個室等の扉を閉鎖し、区画を形成することで煙の拡散を防ぎます。

3 消防用設備等の役割と維持管理

消防用設備等の役割について確認しましょう。また、火災の際に消防用設備等が機能するよう、日頃の維持管理を徹底しましょう。

○ 消火器

初期消火に使用します。歩いて20m以下に必ず設置されています。



Point

黄色いピン(安全栓)を抜かないとレバーは握れません。



○ 屋内消火栓設備

加圧送水装置(ポンプ)を起動しホースを火点まで延長して、初期消火します。



Point

発信機を押すとポンプが起動します。

○ スプリンクラー設備

自動的に火災を感知して天井等に取り付けられているヘッドから散水して消火します。



Point

建物内には、ヘッドが設置されていない部分もあるので消火器及び補助散水栓を併用しましょう。

○ 自動火災報知設備

自動的に火災を感知して、警報を発するとともに火災発生場所を受信機に表示します。



Point

火災の発生を建物内に報知するものであり、消防機関へは通報されません。

○ 火災通報装置

火災が発生した場合に、手動起動装置を操作することにより事前に登録されたメッセージを消防機関へ通報します。



Point

消防機関より呼返しがあり、通話により詳細について通報ができます。

○ 避難器具(救助袋、緩降機、避難はしご等)

避難器具は、最終的な避難手段として使用します。



Point

階段等からの避難が困難な場合に使用します。

2 火災の性状

建物火災の性状について理解し、適時適切な対応行動をとることが人命を守るために重要です。



(1) 火災の進展過程

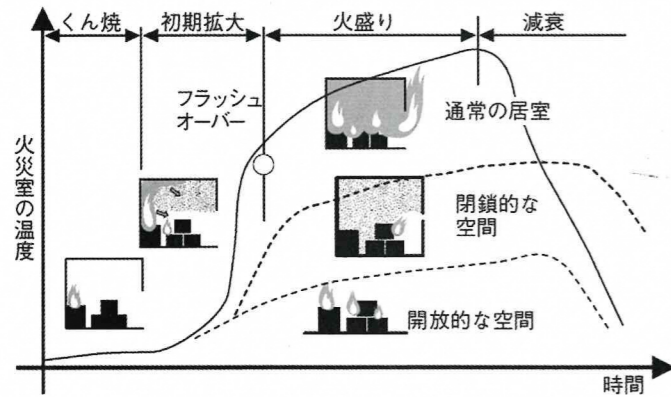


図. 区画火災の進展過程

(出典：原田和典、建築火災のメカニズムと火災安全設計)

- くん焼** 小さな火種です。
- 初期拡大** 火種は成長して壁やカーテンなどに延焼します。
- 火盛り** 炎は窓を突き破り、天井を抜き、軒先や屋根から炎が立ち昇ります。
- 減衰** 火の勢いが衰え、鎮火に至ります。



Point

早期発見と初期消火により火災を最小限にとどめましょう。

(2) 煙の危険性



- ア 煙の拡散する速度は、急速です。
 - ※ 上方向…毎秒3～5m
 - 横方向…毎秒0.3～0.8m
 - 人間の歩行速度…毎秒1～1.5m
- イ 見通しが悪くなり方向感覚を失い、心理的パニックを起こします。
- ウ 有毒ガスを含んでいます。
- エ 煙は熱せられており、吸い込むと火傷を起こします。



Point

階段室や個室等の扉を閉鎖し、区画を形成することで煙の拡散を防ぎます。

3 消防用設備等の役割と維持管理

消防用設備等の役割について確認しましょう。また、火災の際に消防用設備等が機能するように、日頃の維持管理を徹底しましょう。

○ 消火器

初期消火に使用します。歩いて20m以下に必ず設置されています。



Point

黄色いピン（安全栓）を抜かないとレバーは握れません。



○ 屋内消火栓設備

加圧送水装置（ポンプ）を起動しホースを火点まで延長して、初期消火します。



Point

発信機を押すとポンプが起動します。

○ スプリンクラー設備

自動的に火災を感知して天井等に取り付けられているヘッドから散水して消火します。



Point

建物内には、ヘッドが設置されていない部分もあるので消火器及び補助散水栓を併用しましょう。

○ 自動火災報知設備

自動的に火災を感知して、警報を発するとともに火災発生場所を受信機に表示します。



Point

火災の発生を建物内に報知するものであり、消防機関へは通報されません。

○ 火災通報装置

火災が発生した場合に、手動起動装置を操作することにより事前に登録されたメッセージを消防機関へ通報します。



Point

消防機関より呼返しがあり、通話により詳細について通報ができます。

○ 避難器具（救助袋、緩降機、避難はしご等）

避難器具は、最終的な避難手段として使用します。



Point

階段等からの避難が困難な場合に使用します。

火災発生時の実施項目

以下の内容は、火災発生時に最低限実施すべき事項を示したものです。

実施項目	活動内容
出火場所の確認	自動火災報知設備の受信機及び警戒区域一覧表により出火場所の確認を行う。
現場の確認	消火器・送受話器・懐中電灯を携行し、現場へかけつける。 【ポイント】 常用エレベーターは使用しない。
消防機関への通報	固定電話又は火災通報装置等により119番通報する。 【ポイント】 〔第1報通報 受信機で発報場所が確認された時点で通報する。〕 〔第2報通報 火災発生有無が確認された時点で通報する。〕
館内への連絡	館内の隊員及び利用者に火災の発生場所、程度の状況を繰り返し連絡する。 ◆ 放送設備がある場合 ・ 火災発生の確認前 【文例】 「ただ今、〇階〇〇で感知器が発報しました。確認しておりますので、次の放送にご注意下さい。」 ・ 火災発生の確認後 【文例】 「ただ今、〇階〇〇で火災が発生しました。お客様は、係員の指示に従って避難して下さい。」 ◆ 放送設備がない場合 拡声器等により「火事だー！」と叫び、周囲に火災を知らせる。
初期消火	消火器又は屋内消火栓設備を使用して消火する。 【ポイント】 ・ 消火器を使用した場合、天井に炎が移った時点で消火不能と判断する。 ・ 火災室を離れる時は、火災室の出入口を閉鎖する。
区画の形成	(1) 手動・自動で防火戸等を閉鎖し、防火区画の形成を行う。 (2) 手動・自動で防煙たれ壁を起動し、防煙区画を形成し、排煙設備を起動する。
避難誘導	(1) 拡声器等を使用して、避難経路の指示を行う。 (2) エレベーターの使用禁止を知らせる。 (3) 逃げ遅れの有無を確認する。 【ポイント】 ・ 避難器具は、階段等が使用できなくなった時の最終手段とする。 ・ 階段入口、通路角等の主要な避難経路、階段に誘導員の配置を行う。
消防隊への情報提供	消防隊に次の情報を提供する。 ・ 出火場所 ・ 避難の状況 ・ 隊員の活動状況

※ より詳細の活動内容については、防火管理体制指導マニュアル等を参照することで確認できます。

消防訓練実施記録書

事業所	所在地								
	名称								
	用途	() 項							
訓練責任者	職	氏名							
実施日時	年	月	日	時	分	～	時	分	まで
参加者	従業員 (<input type="checkbox"/> 全員 <input type="checkbox"/> 一部)	名	その他	名					
訓練想定	出火時間	時頃 (利用状況:)							
	出火場所	階	出火場所:						
訓練結果	使用した消防用設備	<input type="checkbox"/> 消火器 <input type="checkbox"/> 屋内消火栓設備 <input type="checkbox"/> 自動火災報知設備 <input type="checkbox"/> 非常放送設備 <input type="checkbox"/> 火災通報装置 <input type="checkbox"/> その他 ()							
	良かった点								
	改善すべき点								
	その他								

備考 にはレ点を記入すること。

安全管理チェック表

● 訓練前	チェック欄
① 参加者に対し、訓練内容について事前教育を実施しましたか。	<input type="checkbox"/>
② 訓練に使用する施設・資機材(手袋、ヘルメット等)・消防用設備等・建築防災設備は、事前に点検をしましたか。	<input type="checkbox"/>
③ 参加者の服装、健康状態を把握しましたか。	<input type="checkbox"/>
④ 準備運動を入念に実施しましたか。	<input type="checkbox"/>
⑤ 建物利用者がある場合は、訓練実施について事前の周知をしましたか。	<input type="checkbox"/>
● 訓練中	チェック欄
① 訓練に使用している施設・資機材・設備に異常があったときは、直ちに訓練を停止して、是正措置を講じさせる等の安全対策を行いましたか。	<input type="checkbox"/>
② 参加者個々の行動に注視し、危険が予測される場合又は事故が発生した場合は、直ちに訓練を中止しましたか。	<input type="checkbox"/>
● 訓練後	チェック欄
① 訓練に使用した資機材は、元の状態に戻しましたか。	<input type="checkbox"/>
② 消防用設備等・建築防災設備を使用した場合は、収納を確実にし、受信機等のスイッチ類については確実に元の状態に復旧しましたか。	<input type="checkbox"/>
③ 参加者にけが、体調不良等が生じた人はいませんでしたか。	<input type="checkbox"/>

消防訓練実施記録書

事業所	所在地	金沢市泉本町7丁目9番地2
	名称	金沢消防ホテル
	用途	(5) 項 1
訓練責任者	職 総務課長 氏名 金沢 太郎	
実施日時	平成26年 12 月 1 日 10 時 30 分 ~ 11 時 00 分 まで	
参加者	従業員 (<input type="checkbox"/> 全員 <input checked="" type="checkbox"/> 一部) 6 名 その他 2 名	
訓練想定	出火時間	23 時頃 (利用状況: 満室) (従業員数: 宿直2名)
	出火場所	6 階 出火場所: 603号室
訓練結果	使用した消防用設備	<input checked="" type="checkbox"/> 消火器 <input type="checkbox"/> 屋内消火栓設備 <input checked="" type="checkbox"/> 自動火災報知設備 <input type="checkbox"/> 非常放送設備 <input type="checkbox"/> 火災通報装置 <input type="checkbox"/> その他 ()
	良かった点	・火災階及び直上階を中心に各客室への伝達を隊員間で連携しながら、迅速に実施することができた。 ・消防隊への情報提供は、田中さんが実施する予定だったが、鈴木さんがフォローした点は良かった。
	改善すべき点	・現場確認時に、送受話器を携行しなかったため隊員間の連絡が適切にできなかった。 ・区画の形成には、時間を要するため防火戸を早期段階において閉鎖し、火煙の拡大を防ぐよう意識する必要がある。
その他	今回、初期消火では消火器を使用した但次回、屋内消火栓設備を使用した訓練を実施したい。	

備考 にはレ点を記入すること。

隊員行動表

実施日 年 月 日

実施項目	隊員(班)名 待機場所		隊員(班)名 待機場所		隊員(班)名 待機場所		隊員(班)名 待機場所	
	(計画)	(結果)	(計画)	(結果)	(計画)	(結果)	(計画)	(結果)
-	自動火災報知設備が鳴動 ・ 従業員等による火災発見 出火場所： 階 ()							
出火場所の確認								
現場の確認								
消防機関への通報								
館内への連絡								
初期消火								
区画の形成								
避難誘導								
消防隊への情報提供								

【隊員行動実施時間】 時 分 ~ 時 分 (分間)

- 備考 1 青線で計画した行動、赤線で実施した行動を記載すること。
2 隊員が5名以上の場合は、2枚使用する。

隊員行動表

実施日 26 年 12 月 1 日

実施項目	隊員(班)名 田中 待機場所 1階受付		隊員(班)名 鈴木 待機場所 1階仮眠室		隊員(班)名 待機場所		隊員(班)名 待機場所	
	(計画)	(結果)	(計画)	(結果)	(計画)	(結果)	(計画)	(結果)
-	自動火災報知設備が鳴動 ・ 従業員等による火災発見 出火場所： 6 階 (603号室)							
出火場所の確認	↑	↑						
現場の確認	↓	↓						
消防機関への通報			↑	↑				
館内への連絡	↑	↑						
初期消火	↓	↓	↑	↑				
区画の形成								
避難誘導								
消防隊への情報提供	↑	↓	↓	↓				

【隊員行動実施時間】 10 時 30 分 ~ 10 時 40 分 (10 分間)

- 備考 1 青線で計画した行動、赤線で実施した行動を記載すること。
2 隊員が5名以上の場合は、2枚使用する。